

決算のDOOR

～数字が語る
東京大学



第1回 登場人物はみなさんです！

こんにちは、財務部決算課です。決算課が初めてお目見えしたのは、東京大学が法人化された平成16年4月1日。それからすでに7年目になります。「オギャア」と産まれた赤ん坊がいつのまにか小学校に通いだし、後輩などできて、ちよっぴり生意気な口をききだした、そんなお年頃になりました。

私たち決算課では毎年度末の決算期に「財務諸表」と呼ばれる書類（決算書）を作るため、日々数字とにらめっこ（決算作業）をしています。「決算書」はその時の大学の状況が一目でわかる通信簿のようなもの。その「決算書」、突然ですがみなさんは、どんなイメージをお持ちですか？「なんだか難しそう」「マニアックな数字の羅列」「自分には関係ないし、興味ない」…なんて思っていないですか？いえいえ、とんでもない！「決算」とは東京大学に所属しているみなさん—先生も学生さんも職員のみなさんも—が毎日行っている教育や研究活動の内容を数字で表すことです。たとえば…先生方が日々行う研究に必要な薬品や実験器具などの代金、学会に行くための旅費、実験装置を動かす光熱費、講義室の清掃費、不審者から学生さんを守る警備費用やみなさんのお給料（以上「費用」）、入学した学生さんから納めてもらう入学金や授業料、国から措置される交付金や民間企業や政府系団体からいただく研究費（以上「収益」）、何気なく使っている建物やキャンパス内の舗道、図書館の蔵書から目の前にあるパソコンなどの大学の所有物（以上「資産」）、そして病院の設備投資のため負っている借金（負債）まで、大学の諸行無常一切合財あわせて1年分ボンとまとめたものが「決算書」なのです。「関係ない」なんて思っているみなさんも、実は知らないうちに決算書にひょっこり顔を出しているのです。どうですか？ちょっとだけ興味がわいてきませんか？

このコラムではそんな決算書の数字に込められた意外な事実や、少々「マニアック」なルールをご紹介しますことで、みなさんが「決算」に興味を持つ入り口となることができました…そんなふうにご覧しております。

さて、決算書の中で私たち教職員が一番関わっているもの、それは毎月いただくお給料＝「人件費」です。そのことで以前こんな質問をいただきました。

「『人材』というのに、なぜ決算では私たち職員を財産（＝資産）として扱わないのですか？」



給与＝資産額？

なるほど、「子宝」とも「国民は国の財産」とも言います。大学にとっても教職員のみなさんは、大切な財産。土地や建物、高価な設備があっても、そこで働き、教える人がいなければ大学は成り立ちません。では、実際に資産とみなしたらどうなるか？…は次号で！（青）

このコラムへのご意見、ご質問をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております！

本部財務部決算課

E-mail: kessan-g@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

★ASIAN DIVERSITY★

No. 2

偶然にできあがった！？
エミール・ガレ作品にみる
『オリент』

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)では毎週木曜日夕方にセミナーを開催しております。このコーナーでは、当セミナーでの報告を紹介する形で、アジアに関する様々な研究をご紹介します。第二回は鶴飼敦子氏(東洋文化研究所、特任研究員)による、「エミール・ガレと『オリент』」(2010年7月1日開催)です。

アール・ヌーヴォーを代表するフランスのガラス工芸家エミール・ガレは、日本でも美術館があり、美術展が開催され、ご存じの方が多いと思います。ガレの作品は、これまでジャポニズムの一例として語られることが多かったのですが、ガレが「極東」、「日本」をどのように捉えていたのかを、作品と言辞から検討する、というご報告でした。

19世紀半ば頃までの、画一化されたエナメル技法に対して、ガレは、製作過程における即興性と偶然性を重視したガラス工芸の技法を取り入れ、新しい芸術のあり方を示していきました。とりわけ、ガレのガラスの表面を軽やかに舞うという筆致は、高島北海という日本人との出会いから生まれた可能性があるのではないかとこのことでした。実際、ガレは日本の植物を栽培し、園芸を嗜み、これらをモチーフにした斬新な作品を生み出していったそうです。19世紀末の日本の近代化への反動が、こうした技術開発のきっかけになったと指摘されていました。

鶴飼氏の報告に対して、「彼の作品の中で、『日本』はどのくらい独特なものなのか」、「ガレは『オリент』の一部として日本を捉えていたのではないか」、「この時期の日仏文化交流を日本側はどのように位置付けていたのか」など多くの質問がなされました。

セミナーの詳細は下記のURLをご参照下さい。
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6921>



日本・アジアに関する研究教育ネットワーク (ASNET)
安田佳代

★ASIAN DIVERSITY★